

NISSHA 株式会社  
「2020 年 12 月期 Q3 WEB 決算説明会」  
質疑応答の要旨  
(2020 年 11 月 11 日開催)

Q1. 2021 年度の見通しはどうか

A1. デバイス事業については、タブレット向けの堅調な製品需要の継続を期待している。スマートフォン向けの製品需要の変動には、2020 年上期に実施した収益力強化策などにより改善した収益性を維持したい。産業資材事業については、新型コロナウイルス（COVID-19）禍においても受注活動を実行・継続しており、収益力強化策の効果などによる収益性の改善を期待している。メディカルテクノロジー事業については、COVID-19 の影響による需要減少からの回復に時間を要するだろう。2020 年 11 月に資産買収した工場の収益が連結加算される。

Q2. モビリティ向けタッチセンサーの進捗状況は

A2. COVID-19 の影響によりお客さまの製品開発に遅れがみられるプロジェクトがあり、その進捗を注視している。当社のタッチセンサーの特長に合致するトレンドは変わらない。

Q3. デバイス事業のタブレット向けの製品需要は前回の業績予想の想定と比べてどうか

A3. Q3 で約 10%増加した。Q4 で約 40%増加すると見ている。

Q4. 2021 年度の業績に貢献するような新たな事業機会はあるか

A4. 単一製品でスマートフォン向けのようなボリュームの大きなものはないが、さまざまな製品・市場でこれまで取り組んできたものの成果を見込んでいる。

Q5. 収益力強化策の効果額は

A5. 2020 年度下期で 9-10 億円（希望退職による効果）。

Q6. 今後も M&A を積極的に行っていくのか

A6. これまでの多くの M&A を通して、事業ポートフォリオの組み換えに必要な戦略資産を獲得してきた。今後はこれまでに買収した企業の成長や効率性の改善を促進するとともに、NISSHA グループ内のシナジーの創出を目指す。その中で、必要となる戦略資産を新たに獲得するなどの戦略実行のオプションとして M&A の検討を継続することになるだろう。

Q7. デバイス事業のタッチセンサーの対象製品をスマートフォン・タブレット向け以外に広げる可能性はあるか

A7. モビリティ向けタッチセンサーは大型化、高精細化、曲面化のトレンドに乗って拡大していく見込み。ノート PC 向けなどに拡販する計画はない。

Q8. デバイス事業のタッチセンサーにおける中国の競合の影響はどうか

A8. 分からないが、当社への製品需要は非常に力強くなっている。